

経営比較分析表（平成30年度決算）

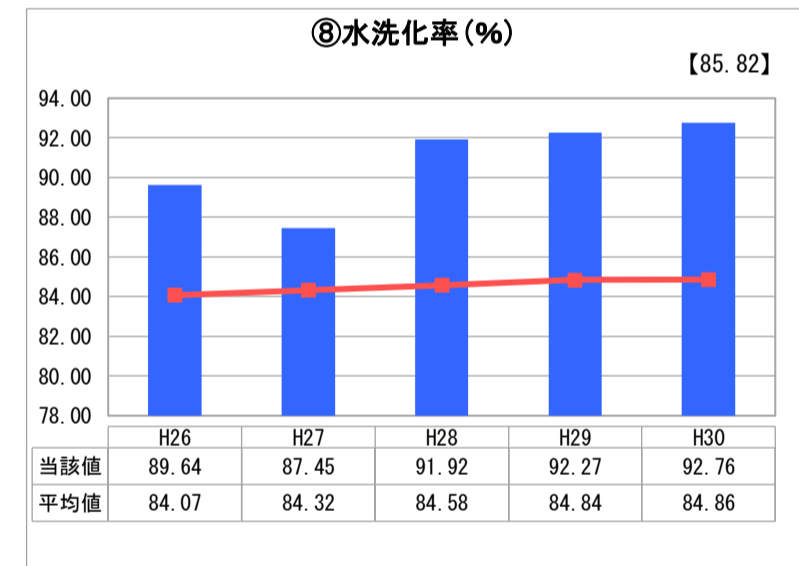
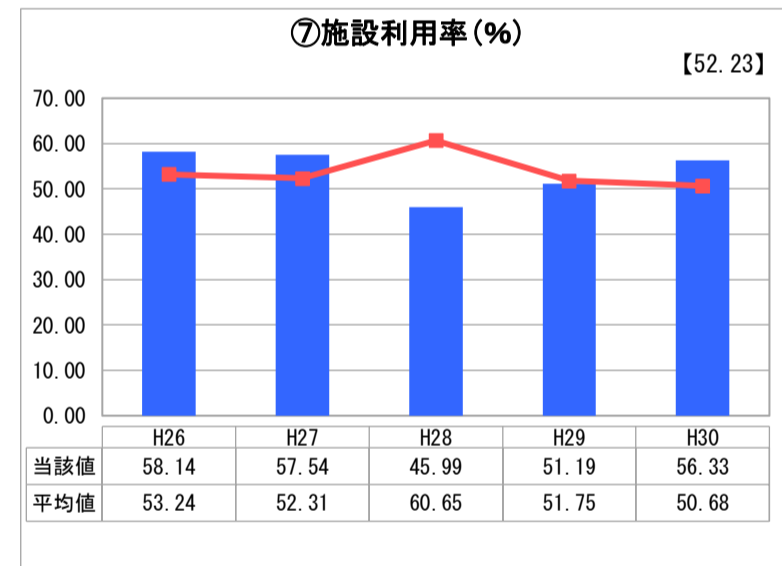
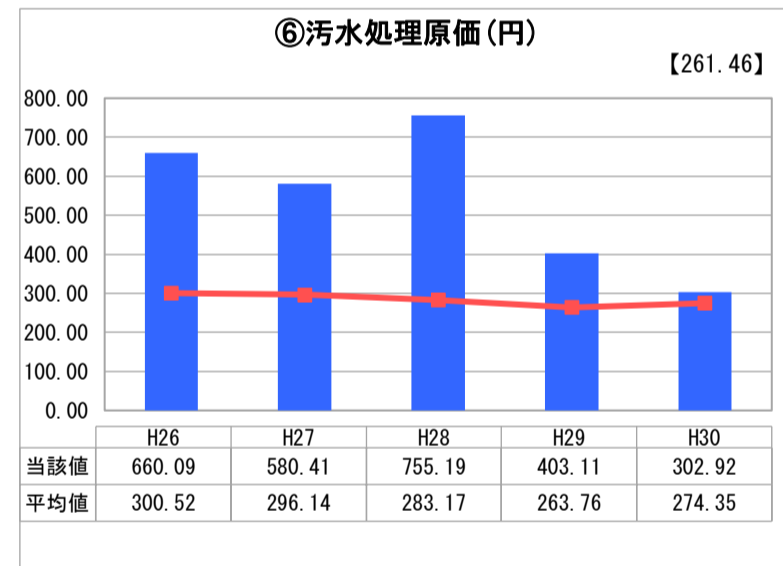
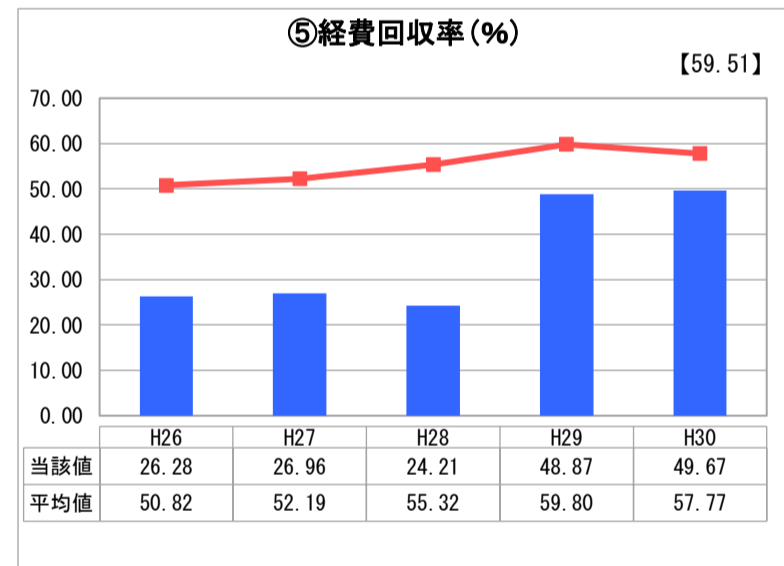
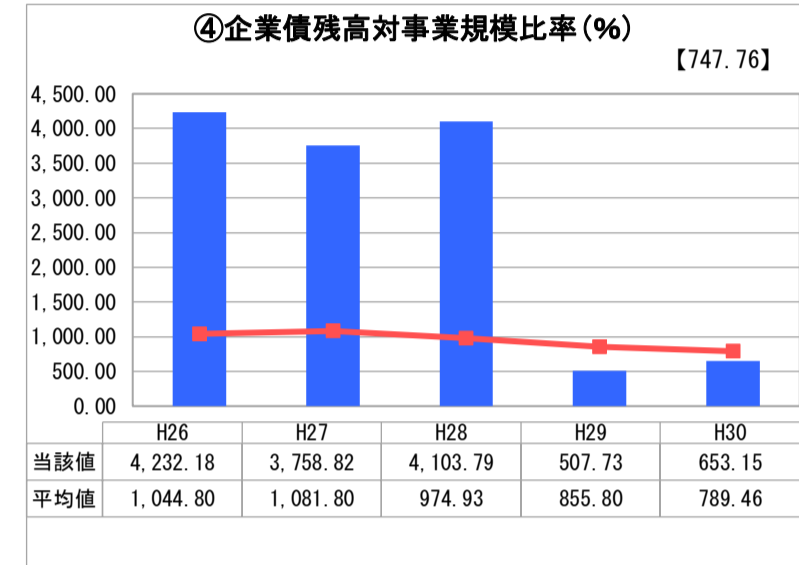
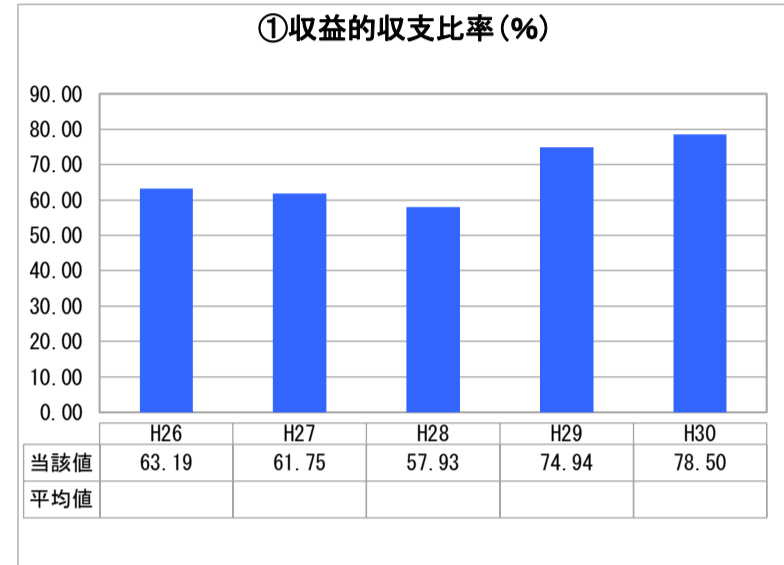
京都府 綾部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	13.50	90.91	2,700

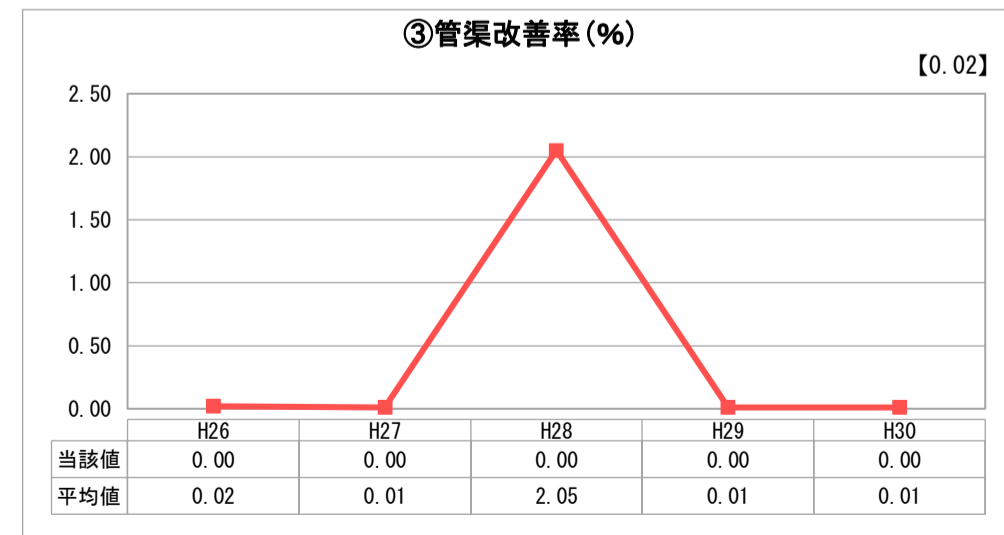
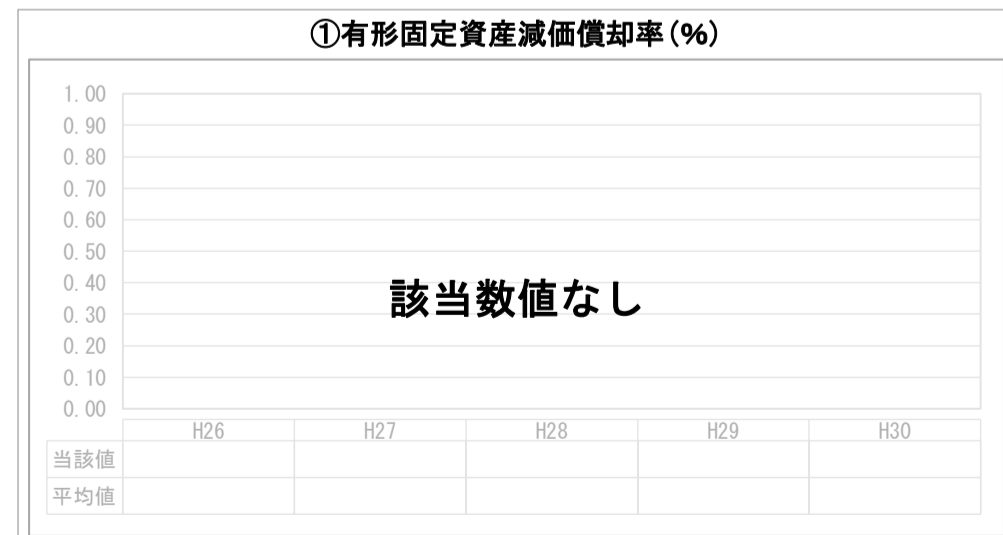
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
33,721	347.10	97.15
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,518	2.96	1,526.35

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成30年度は、地方公営企業法適用を翌年度に控え打切り決算としたため、単純比較が困難となっています。

①収益的収支比率は、使用料改定を行ったことにより、改善がみられはしましたが、まだ100%には至っていません。また、総収益について、一般会計繰入金に依存した状況になっており、経営改善を図っていく必要があります。

④企業債残高対事業規模比率は類似団体平均値を下回りましたが、投資規模、料金水準及び企業債のあり方について引き続き検討していく必要があります。

⑤経費回収率は、使用料を改定したことにより改善がみられましたが、依然として類似団体平均値を下回っています。原因は、低額な使用料と家屋が散在していること等による高額な汚水処理に係る資本費にあると考えられ、適正な使用料収入の確保が必要です。

⑥汚水処理原価は類似団体平均値を上回っており、投資の適正化、維持管理費の削減、接続率の向上による有収水量を増加させる取り組みが必要と考えられます。

⑦施設利用率は類似団体平均値並みであり、大きな課題はありません。

⑧水洗化率は類似団体平均値を上回っていますが、引き続き水洗化の普及促進に努めていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

管渠は比較的新しいため、管渠改善の実績はありませんが、事業実施から約25年が経過し事業完了した現在、機器の老朽化が進行する中で、長寿命化計画等を検討・実施していく時期を迎えています。

全体総括

本市の農業集落排水事業の経営は厳しい状態であると認識しています。特に、経費回収率が類似団体平均値を下回っており、この原因は主に、類似団体平均値を上回る高額な汚水処理原価（資本費・維持管理費）にも関わらず、それに見合う適正な使用料収入を確保できていないことにあると分析しています。今後、汚水処理原価を減少させるために、徹底した維持管理費の削減が最重要課題であると認識しています。また、接続率の向上による有収水量を増加させる取組が必要です。その上で、適正な使用料収入を算出し、必要に応じて料金改定等の検討を進めていき、経営改善を図りたいと考えています。なお、平成31年4月からは地方公営企業法を適用し、企業会計方式を取り入れることにより、経営の見える化を進めていきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。